



2. 19

## PDA 沖縄県即興型英語ディベート交流大会（体験会・交流大会）

一般社団法人パラメンタリーディベート人財育成協会（PDA）

開催日時：体験会 2018年9月1日（土）13:00-15:30

交流大会 9月2日（日）10:00-14:00

会場：沖縄県立那覇高等学校、協力：沖縄県高英研

参加者：生徒 37名、教員 16名

参加校：沖縄尚学高校、球陽高校、向陽高校、宜野湾高校、知念高校、那覇高校、開邦高校、浦添高校、国立高等専門学校、那覇工業高校

ジャッジ：PDA スタッフ、早稲田大学

助成：公益財団法人 日本財団

本格的に二学期に入った高校生たちは、即興型の英語ディベートの体験会・交流大会に参加するために沖縄県立那覇高校に集結しました。体験会では、まずはじめの言葉として、沖縄県高英研 事務局長の平良順子先生より、激励のお言葉をいただきました。平良先生「沖縄県では、準備型のディベート大会を20年近くやってきたが、出場校が限られており、なかなか広がらないということがありました。今回のPDA即興型のディベートでは、授業に導入できる形で広がると思います。」その後、PDA代表中川より即興型英語ディベートの特徴やルール、POI（質疑応答）などの説明後、モデルディベートを披露しました。



いよいよ実践ラウンドの始まりです。ほとんどの生徒にとってディベートをするのは今回が初めてでした。生徒だけでなく教員もディベートに取り組みました。準備時間中、「難しい！」と言っていた生徒もいざディベートが始まるとジャッジの前で堂々とスピーチすることができました。途中、「チームメイトと相手が言っていたことってこれで合ってる？」や「私が考えたこの反論に付け加えることない？」などチームワークも発揮しながら相手の話を理解してディベートをしようという姿勢がよく見えました。



続く第二試合目では、ルールにも慣れ、準備時間には「定義をしっかり言わないといけないよね」「相手はこういうことを言うてくると思う」と、第一試合よりも戦略を練りながらチームでポイントを考えることができました。いざディベートが始まると第一試合ではあまり見られなかった POI もたくさん見られました。また、ディベートが終わった後は握手をし、お互いの健闘を讃え合いました。ジャッジからのコメントも真剣に聞きました。



体験会閉会式では、PDAの夏合宿・大会への参加経験がある教員より、沖縄における即興型英語ディベートの普及にかける想いを語っていただきました。球陽高校の上地先生より、「言えなかった！というもどかしさもあると当時にやっていて楽しい。楽しく効果的に英語力を伸ばせると思う。」そして宜野湾高校の宮城先生より、「即興型の英語ディベートは、英語学習へのモチベーションが上がるいい仕組みである。」とコメントをいただきました。



### ベストディベーターに選ばれた皆さん

- さん
- さん
- さん
- さん
- さん
- さん
- 先生
- 先生

### POI 賞に選ばれた皆さん

- 先生
- 先生
- 先生

前日に体験会を経てディベートのノウハウを知った生徒は、交流大会に臨みました。沖縄高英研事務局長の平良順子先生より、「沖縄でも授業に取り入れることができるのではないかと強い期待を持っています。頑張ってください。」と激励のお言葉をいただきました。そして POI（質疑応答）の練習を行い、いよいよ実践です。



第1ラウンドの論題は、「High school students should have part-time jobs.（高校生はアルバイトをすべき）」でした。アルバイトでしか得られない社会経験や、学校でも得られる経験について、そして金銭感覚や勉強の重要性など様々な視点から議論が展開されました。また、体験会では躊躇していた様子も見られた POI も積極的に行うことができました。



第2ラウンドの論題は「Development of AI weapons should be banned. (AI兵器の開発を禁止すべきだ。)」でした。このラウンドでは生徒がディベートを実践すると同時に、今回がディベートをするのが初めてだという教員も一緒にディベートを行いました。

いかにAIが予測不可能性を孕んでいるかというリスクや、戦士する兵士の数を減らすことができるというメリットなどについて様々な例を用いるなどしながら説明することができました。また、繰り返しを求めるなどのPOIがほとんどでしたが、このラウンドでは相手の痛いところをつくようなPOIも見られました。



教員も生徒同様15分の準備を行います



堂々とスピーチしています



初めてでも時間たっぷりスピーチしました



目を見てPOI(質疑応答)できました

エキシビジョンディベートでは、各校より生徒が選ばれ、他校のチームメンバーと協力し、その場で15分の準備を行いました。エキシビジョンディベートの論題は、「The U.S. military base in Okinawa should be relocated to other prefectures in Japan. (沖縄の米軍基地を県外に移設すべきである。)」でした。地元沖縄に関する論題に、各チーム準備時間の15分は白熱したディスカッションが行われました。今回はチーフジャッジの先生だけでなく、教員や生徒も票を投じるということもあり、聴衆もディベートをしている生徒と同じくらい真剣な面持ちでした。

ディベートが始まると現状で沖縄が抱える米軍基地の問題、例えば暴力の問題、実際に女性が殺された問題などに言及したり、経済効果の恩恵を沖縄が受けているという現状に言及したりしました。また、相手の言っていることが正しいとは言えないという根拠を示すなど、POI（質疑応答）を効果的に用いることができました。中には、スピーチのイントロダクションで「I'm very proud to give a speech as a mayor of Okinawa.」とジョークを交え、会場を笑いで満たす余裕も見られました。閉会式では、宜野湾高校の宮城千恵先生より、「今日のエキシビションでは、沖縄の大事な問題が取り扱われたが、もっと勉強して、英語で世界に発信していきえるように頑張ってください。」と生徒へ励ましの言葉をいただきました。



聴衆を意識したスピーチを行なっています



相手の痛いところをつく POIを試みています



相手の話をより理解しようと積極的に POI



相手の話をより理解しようと積極的に POI



握手をして健闘を讃え合いました



(大会結果)

エキシビジョンディベータ賞

PM 知念高校 [redacted] さん

MG 知念高校 [redacted] さん

PMR 宜野湾高校 [redacted] さん

LO 知念高校 [redacted] さん

MO 知念高校 [redacted] さん

LOR 宜野湾高校 [redacted] さん



チーム賞

1位 知念B

2位 宜野湾A

3位 知念A



ベストディベータ賞

1位

・ [redacted] (知念B)

2位

・ [redacted] (知念A)

・ [redacted] (知念B)

・ [redacted] (宜野湾A)



POI賞

1位

・ [redacted] (知念A)

2位

・ [redacted] (知念A)

・ [redacted] (知念B)

・ [redacted] (宜野湾A)

・ [redacted] (宜野湾B)



## 生徒の声（アンケートより抜粋）

- ・ 言いたいことを英語で言えないもどかしさがあった。英語を学ぶことの大切さを思い知らされた。意見を伝えることの大切さ、わかる単語で伝えることの大切さを知った。（那覇）
- ・ 日本語でのディベートよりもとても難しく、深いなーと思った。（興南）
- ・ これをきっかけに英語をもっと話せればスムーズに自分の意見が言えるとわかり、英語をすごく学びたくなりました。（那覇）
- ・ 初めて参加したが、あまり緊張せず、とても楽しめた。たくさんの人に伝えてもっと広めてほしい。（知念）
- ・ 2分半、とにかく喋ることを目標に頑張ることができた。緊張しました。（那覇）
- ・ かなりハイレベルだと感じたが、やっていてとても楽しかった。今後も機会があれば参加したい。（沖縄尚学）
- ・ 短時間で考えを出せても、それを論立てるのが難しかったです。普段、学校とかであまり体験できないので、良い経験になりました。（向陽）
- ・ 普段授業で習っているような感じで文を考えたらいいか、と思っていたけど、実際お題をもらってから、たった15分で意見を考えるのはとても難しかったです。しかし、今回の経験で、確実に力になったと思うので、今後もディベート大会に参加したいと思いました。（那覇）
- ・ もっと早い段階でディベートに出会いたかった。来年、大学生になったらまたディベートをしたいと思いました。（知念）
- ・ 意見をパツと思いついて、まとめ、それを構成を考えながらスピーチをして行くのは難しかったです。チームメンバーで助け合えたことが楽しかったです。（沖縄尚学）
- ・ 次はもっとこうしてみようという思いが、終わってから沢山出てきたので、ぜひ次も取り組みたいです。（球陽）
- ・ 即興で英語力のなさに気づいたけど、何回もやることでコツがつかめると思いました。POIも積極的に頑張ろうと思いました。（球陽）
- ・ 自分の意見を英語で伝えるということは難しかったけど、相手やジャッジに伝えられた時の達成感は学校の授業では感じられない感覚だった。（宜野湾）
- ・ 相手の意見を取り込んでそれをどう論理的に返すかを考えるのは大変だけど、楽しかった。また、ディベートは英語力のみではなく、情報量も大切と思った。（知念）
- ・ 色々な考えもわかるし、英語を自分ですぐ組み立てたりすることで、すぐに英語を話せる練習になった。

## 教員の声（アンケートより抜粋）

- ・ 生徒達が一生懸命取り組んでいる姿を見てよかったですと思いました。英語学習へのモチベーションも高まったと思います。（教員・向陽）
- ・ Logic を教えるのは難しいですが、パラメンタリーディベートだと Logic を体感できるのでとても良いと思いました。2学期から授業に取り入れたいと考えています。（教員・那覇国際）
- ・ 皆、ディベート自体初めてでしたが、何とかこなすことができ、達成感を感じている様子でした。学校に持ち帰り、また校内で行いたいです。（教員・球陽）
- ・ 学校でのディベートは夏休みなどの時間を利用して準備していたのですが、この方式だと時間が削減でき、資料収集に追われず、即興でやれることが生徒の訓練にも効果的で良いと考えます。（教員）
- ・ ディベートのワークシートや議題に応じた単語集もあり、気軽に取り組める印象を受けました。ただ学校によっては、いきなり英語で行うのではなくて、日本語で、生徒の興味がある議題を取り上げて慣れて行くのが必要かなと感じました。今後、授業の中で取り入れていきたいです。（教員・宜野湾）
- ・ コツがつかめてきたのと、授業で導入する場合はどういう step であればよいのかを考えながら生徒のディベートをみることができた。（教員・那覇国際）
- ・ 実際にディベートに参加することにより理解していたつもりがそうでなかったこと、また、スピーチを要領よくまとめることの難しさなどを具体的に実感しました。即興型ディベートを積み重ねることにより負担を感じずに体験を通して学べるのかなと生徒の気持ちになりました。（教員）
- ・ 即興型は初めての経験でディベートは準備に時間がかかるものであったがこのような準備時間がかからないタイプは負担が少なくいいと思う。（教員・名桜大学）